

Victor Gould Trio

[Profile]

ビクター・グールド Victor Gould :piano



ロサンゼルス生まれ、現在ニューヨーク市在住。

4歳の頃からピアノを弾き始めたビクターは、バークリー音楽大学に入学し、ハービー・ハンコックが主宰する奨学金の史上初の受賞者となり彼のキャリアは始まる。

バークリー音楽大学で学士号を取得した後、Loyola大学の有名なThelonious Monk Institute of Jazzで学び、そこで音楽の修士号を取得する。

2006年「セロニアスモンク・インターナショナル・ピアノコンペティション」及び、2009年「ASCAP財団ヤングジャズ作曲家賞」のセミファイナリストに選ばれる。

その後、Esperanza Spalding、Terence Blanchard、Branford Marsalis、Nicholas Payton、Ralph Peterson、Wallace Roney、Donald Harrison、Buster Williamsなど、多くのジャズジャイアントと共演やレコーディングを行う。

ビクターのデビューアルバム、「Clockwork」は「NPR Music's」2016年のJazz Critics Pollで1位に選ばれる。

その後、2作目のソロアルバムである「Earthlings」がフォローアップされ大きな話題となる。2019年7月には彼自身3作目のアルバム「Thoughts Become Things」をリリースする予定です。

David Wong デビッド・ウォン : bass



米ニューヨークにある有名音楽大学、ジュリアード音楽院のクラシックベース科を卒業、またそこでジャズをRon Carter、Ben Wolfeに学ぶ。

名高いベース・プレイヤーたちの中からも一目置かれる抜群のテクニックが魅力で、若くしてヴィレッジ・ヴァンガード・ジャズ・オーケストラの正式ベーシストに抜擢される。

彼のキャリアはヴァンガード・ジャズ・オーケストラのほか、ハンク・ジョーンズやロイ・ヘインズ、クラーク・テリー、ウイントン・マルサリスらのバンドでも演奏し、ニューヨークでファーストコールのベーシストとして活躍している。

ロドニー・グリーン Rodney Green : drums



ニュージャージー州カムデン生まれ。

幼いころから教会でゴスペルとソウルミュージックに囲まれて育ち、ドラムを演奏始める。

14歳の時に本格的にドラム・レッスンを始め、ジャズ、ファンク、ソウルミュージックを学ぶ。16歳でフィラデルフィアのジャズクラブで演奏を始めると間もなく、ボビー・ワトソンからの誘いを受け世界中をツアーする。

17歳の頃からは活動の拠点をニューヨークに移し、すぐに、チャーリー・ヘイデン、ラビ・コルトレーン、リズ・ライト、エリック・リード、ベニー・グリーン等、数多くの主要アーティストと共演を重ねる。その後数年間は、クリスチャン・マグブライド、グレッグ・オズビー、トム・ハレル、マルグルー・ミラー等のグループで演奏し、またダイアナ・クラール・グループのドラマーとして2年間活動をともにする。

現在は豊かな経験と卓越した技術で自己のグループを牽引するとともに、作曲と創造的な次なるプロジェクトに情熱を燃やし、同時にテレンス・ブランチャード、ウイントン・マルサリス、ステフォン・ハリス、アダム・ロジャース、アビー・リンカーン、ハービー・ハンコック、ダイアン・リーブス等、著名なアーティストとの共演を続け、ニューヨークのファースト・コール・ドラマーとして活躍している。